



鶺鴒つうしん

岐阜ダルクニュースレター平成23年冬号 (No.33)



「わたし」のこととして

岐阜ダルク後援会
会長 齋藤幸二

以前、名古屋刑務所の教誨師をされている野村潔司祭（聖公会）のお話をうかがった事があります。お話の中で野村司祭は、「死刑囚の方々と接するうちに、私は決してこの方々と違う者ではない、と思うようになりました。というのは、犯罪が生まれる背景には必ず家庭の問題があったり、社会の問題があったり、教育の問題があるからです。わたしも彼らと同じ境遇に生まれ、同じような環境におかれていれば、同じような罪を犯したと思います。わたしがそうでなかったのはたまたま私がそういう境遇に生まれなかったということなのです。だから私は死刑囚の方に『私もあなたと同じ罪びとの一人です』とお話するのです」と語られました。そして言葉を続けて「また、私たちもこのような犯罪が生まれてくる社会を作っている一人であり、社会で起きている事柄に責任を負っているのです」と語られました。

私の心に今でも司祭のこれらの言葉が強く残っています。薬物の問題にしても、私たちはつい私たちと無縁の話、別の世界の話と考えがちです。また「私はこうした事柄について責任はないのだけれどもゆとりがあったら支援してあげよう」とも考えがちです。しかし私たちが薬物依存を生み出すような社会を作っている一員であるという事実を思うとき、この問題を他者の問題ではなく、私の問題として、私の責任として受け取るようになります。

もうじきクリスマス。ご自分とは何のかかわりのないはずのこの世の罪をその身に引き受けるために人として生まれたイエスのことを思いながら、私たちの果たすべきことを考えてゆきたいと思います。

仲間の体験談

タカ



約3年前、僕は薬を初めて使いました。ある人から勧められ、明らかに違法薬物であると知りながら使いました。

興味、恐怖等、いろいろな感情がありましたが、「自分は中毒になるはずがない」「なる前に辞めれば良い」「警察にばれる訳がない。」等と思い、使ってしまった。

最初の頃は薬の入手方法を知らず、友人が入手した薬と一緒に使っていましたが、ある時自分で入手できる方法を知り、自分一人で入手し薬を使うようになりました。

2回目に自分で薬を入手し、薬をカバンに入れ家に帰った時、7~8人の刑事に取り囲まれ「お前に逮捕状が出ている。何故だか分かるな？」と言われました。まさか自分の人生で警察に逮捕される事など考えた事もなかったので、僕は「もう人生が終わった。」と思いました。

頭の中が真っ白になり呆然としたまま留置場に入れられました。留置場では、これから自分の人生がどうになってしまうのかという不安と、何故薬物なんか手を出してしまったのかという後悔の思いで頭がおかしくなりそうでした。

働いていた会社を解雇され、恋人、友人を失い、生きる希望を無くしていた時に、担当の弁護士からダルクという施設に行くように勧められ、特に行く宛てもない僕は軽い気持ちでダルクに通う事になりました。

岐阜ダルクに通い始めてまず「ここは僕が来るような所ではない。」「ダルクに来ている他の人達とは違う。」「自分は薬物依存症では決してない。」と思いました。ミーティングでは正直に全てを話すように言われ、両親、恋人、友人に迷惑を掛けて後悔している事、将来が不安で仕方ない事、自分はもう二度と薬物を使う事もないし、使いたいたとも思わないという強い決心を毎日話し続けました。

ところがある日、ダルクの仲間が話しているのを聞いていて、仲間は後悔や不安や強い決心などについて一切話していないことに気が付きました。仲間は過去にやってきた行動、日々やろうとした事に対する結果を話していました。むしろ、薬物を使いダルクに繋がりと、生き方、考え方を変えられて良かったと話している仲間もいました。僕はそれがどうしても信じられずにいました。でもそれは自分ももう一度人生をやり直せるのではないかという希望のメッセージでもありました。僕も生き方、考え方を変えていけば立ち直る事ができるかもしれないと。

それから自分が薬物依存症という病気にかかっている事を認められるようになり、新しい事、今までやらなかった事をやるようになりました。掃除、料理、ジョギング、筋トレ、その他細かい事にチャレンジするようになり、考え方も今までの様なマイナス思考ではなくプラスに考えるようにしています。大した事はしていませんが、そんな事でも少しずつ自分に自信ができてきたような気がします。

先日、裁判で僕の刑が確定しました。初犯という事で執行猶予が付きしました。ダルクに繋がった当初は、裁判が終わり執行猶予の判決が出たら、ダルクを出て仕事を探そうと思っていましたが、今ではもう少し続けようと思います。

まだ、ダルクに繋がりが1ヶ月しか経っていませんが、このプログラムを続けていけば、いつか自分も心の底から笑える日が来ると信じて、1日1日を大切に生きています。

クリーン10年目・維持しつづけること

岐阜ダルク 施設長 遠山 香



10月17日、薬が止まって10年が経ちました。

その日の夜のNAミーティング。'パースデーの歌を仲間達と一緒に歌い、10のろうそくの火を吹き消すと、拍手が湧く。司会の仲間が、12年前の私の様子を話し、自分の経験を話す。そしてミーティングのテーマは『涙と笑いと怒り』。仲間の話を聞いていたら当時の事を思い出し、涙が込み上げてくる。自分が話す番になると、仲間達への感謝の気持ちでいっぱいになり、こらえていた涙が溢れ出し、言葉が出なくなりましたが、「心からありがとう」となんとか声をしぼり出しました。NAの帰り道「支えてくれたおかげでクリーン10年迎えられたよ。本当にありがとう」と両親にも電話。父は「よくがんばったな。」と言ってくれてうれしくなりました。

NAのミーティングにつながった当初、仕事もなくし、両親や子供達への愛情をなくし、自尊心を失っていました。精神病院に強制的に入院させられたり、警察に捕まった後も、薬の使用は止まりませんでした。本気でやめようと思っていたのかどうか今となってはわかりませんが、やめないとどうにもならないことは自覚していました。わずかな貯金が底を着くのも時間の問題。そのうち、電車に飛び込んだり、手首を切ろうとするなど自殺行動を繰り返すようになりました。薬をやめようと思えばするほど薬を使い続ける毎日に絶望していききました。そんな私の経験は、薬物依存者の仲間達の中ではよくあることでした。

ミーティングに行くと、薬の問題だけではなく、それぞれが抱えている問題を正直に話し、その問題をどのように解決していったか仲間の体験を聞くことができます。

小さい頃から、コンプレックスと劣等感のかたまりだった私。いつも他人と比べて競争ばかりしてきた生き方に問題があり、生き方を変えないと薬の再使用が待っていると言われてきました。NAの12ステップを使うと様々な問題を解決できることを仲間にも教えてもらいました。ミーティングの中で泣いたり、怒ったり、笑ったりすることで精神的に解放され、薬物を使う必要がなくなりました。

ダルクの役割のひとつとして、NAミーティングに繋げることがあげられます。ミーティングに出続けられるよう、5年間働いた老人介護の仕事をやめてダルクの仕事に就いたのが7年前。ダルクの仕事は、薬物依存者という事を隠すことなくありのままの自分でいられます。

今は両親や子供達への愛情が戻ってきました。私を心から理解してくれる夫にも出会い、同じ経験をした仲間や支えてくれる人達に囲まれていることに心から感謝しています。

最近では、趣味の陶芸を楽しみ、若かり頃に断念したバイクの免許取得のため教習所に通っています。夜は相変わらずNAミーティングに通う毎日です。女性の入寮施設立ち上げの夢があり、まだまだチャレンジする事がたくさんあります。

NAは、日本中、世界中にあるため、どこのミーティングに行っても私の席があります。

ミーティングに通い続け、仲間達と経験と希望を分かち合う限り、私のクリーンはこれからも続いていくに違いありません。

NAのハンドブックにはこう書いてあります。

『NAのミーティングにきちんと通い続けていればクリーンでいられる』と！！

※ダルクでは断薬した日を「パースデー」として祝います。

7周年ダルクフォーラム

ダルク創設時のメンバー右から
外山氏、近藤氏、河野氏、みなさん
個性的(笑)
ぶっちゃけトークショーで会場は
盛り上がりました!?



ダルクでは自分に与えられたものを次の人に手渡すことをします。「ダルクを作り、新しい人に手渡す事をした。」と古くからいるメンバーも話していました。今回のフォーラムでは、ダルクを卒業したふみかが司会を行いました。

初めての司会!
ちょー緊張するよお(涙)

刑務所の中で落語を聴いて、落語を始めた仲間のじん。今回はダルクを題材にした演目で、会場は盛り上がりました。実体験にもとずいているので「分かる分かる」と共感。あまりにリアルで笑いが止まりませんでした。



たくさんの仲間達が今回のフォーラムに参加してくれました。全国で60箇所ほどある中で20箇所のダルクの仲間が参加してくれました。中には16時間かけてきてくれた仲間もいました。

「回復の始まり」すべてはここから始まった、というテーマで今回、岐阜ダルク7周年フォーラムを開催しました。私たちはダルクに繋がったことで、新しい生き方に出会いました。どんな底からの出発。すべてはダルクから始まりました。仲間の体験談「『落語の体験を通して話さる自分の人生がどう変わったか』が自らの体験を通して話されていきました。そして、ダルク創設時のメンバー近藤氏や外山氏、河野氏の対談では、どのようにしてダルクが出来たか、運営していく苦労話、その後どのようにしてダルクが全国に広まっていったのかなど話をさせていただきました。多くの回復のメッセージが岐阜に届きました。



フォーラムアンケート

- ・どんな会なのか想像もできずに参りました。なんて元気な人がおおいのか、元気になった人・・・というのか・・・強いてことなのか?強くなれる場所なのか?ダルクとは、底辺の強さみたいなものを感じる時間でした。ありがとうございました。(一般 40代 女性)
- ・会場が分かりにくかった。JR岐阜駅からバスに乗るのに手間取った。会場も通り過ぎホテルに行った。ダルクの生い立ちを聞く事が出来てよかった。ダルクの生い立ちが施設の雑巾がけから始まったことは貴重な体験談であり、これが本当の回復の始まりであることが理解できました。落語のストーリーが良かった。本人の体験談と家族の体験談が一つ一つ聞ける事が出来てよかった。(薬物依存症家族 男性 60代)
- ・かざることのない、ありのままの姿を語っていただいて、深く感じる事がありました。(一般 男性 60代)
- ・社会の偏見という事がよく言われますが、当事者や関係者以外の人間が、薬物依存症について知りえる機会がそもそも少ないのが事実だと思います。そういった中で、岐阜ダルクのようにいろいろな立場の人が参加できる今回のイベントを開催されているのは、とても大切なことだと思います。これからも(当事者主権はもちろんですが)情報の多方面への発信があれば嬉しいです。「回復」よりも問題を抱えたまま生き延びる知恵を持つ〜依存症の人だけでなく全ての人間に通じる哲学(?)だと思いました。(一般 女性 40代)
- ・改めて依存症が病気であることを認識しました。許す事の大切さ、白黒つけずにあいまいな事の大切さ。皆さんのお話から学びました。ありがとうございました。(他の自助グループ 女性 50代)
- ・仲間の中だけで盛りに盛っていて、外部の人間では内容を知らたくても理解できませんでした。(一般 女性 50代)
- ・体験談をもっと聞きたかった (多数)・暖かいフォーラムありがとうございました! (多数)

2011/9/23

ピアノコンサート



習志見教会で井里子ちゃんによるピアノコンサートを開催しました。小さなコンサートでしたが、和気あいあいとした暖かい雰囲気会場は満員でした。

2011/11/5

レクリエーション

2011/11/13

揖斐川マラソン



スタート前なので、元気いっぱいです!やる気満々!しかし、42.195キロはきつかったです。

42.195キロのフルマラソンに参加しました。天気は快晴!マラソンの初!みんないっしょにマラソンは初チャレンジです。目標の運動の成果は驚愕でしたかな?



綺麗な秋を撮って...いっしょなところをまわりました。素敵な写真がたくさん撮れました。

てむいね...



活動報告

9月

- 1~9日 WCNA in サンディエゴ
- 1日 ダルク後援会議
- 6日 笠松刑務所薬物離脱指導
- 10日 薬物電話相談日
- 12日 各務原病院メッセージ
- 13日 笠松刑務所薬物離脱指導
- 14日 薬物電話相談日
- 14日 薬物電話相談日
- 14日 薬物電話相談日
- 14日 薬物電話相談日
- 16日 司法習司生施設見学
- 23日 ピアノコンサート(多治見)
- 24日 薬物電話相談日
- 女性ダルク 20周年フォーラム

10月

- 2日 聖パウロ教会募金活動
- 6日 ダルク後援会議
- 7日 笠松刑務所研究授業
- 8日 薬物電話相談日
- 10日 岐阜ダルク7周年フォーラム
- 12日 薬物電話相談日
- 14日 笠松刑務所薬物離脱指導
- 15日 スルガダルクフォーラム
- 16日 カトリック岐阜教会バザー
- 22日 薬物電話相談日
- 24日 協働センター講演参加
- 26日 笠松刑務所薬物離脱指導

11月

- 1日 ダルク後援会議
- 5日 一宮教会バザー準備
- 6日 一宮教会バザー
- 社会を明るくする運動(郡上)
- 8日 笠松刑務所薬物離脱指導
- 9日 薬物電話相談日
- 関・美濃保護司会講演
- 12日 薬物電話相談日
- NA オープンスピーカー
- 13日 揖斐川マラソン
- 14日 各務原病院メッセージ
- 15日 レクリエーション
- 19日 仙台ダルクフォーラム
- 20日 ルーテル教会パーベキュー
- 22日 笠松刑務所薬物離脱指導
- 26日 薬物電話相談日
- びわこダルクフォーラム
- 28~30日 JCCA 会議
- (日本カトリックコミュニティアディクション)



電取ダルクの仲間と金庫山に遊びました。



7キロを走りましたよ!

薬物依存症とリハビリ

岐阜ダルク後援会
広報担当 鈴木輝一郎



- △薬物依存症は難治性の病気です。「誘惑に弱い人間だから薬物に依存する」ではありません。
- △映画やドラマなどで「薬の禁断症状から離脱すれば完治」というシーンをよく見かけますが、フィクションです。
- △現実の薬物依存症の回復で最も困難かつ重要なのは、断薬を継続することです。
- △ダルクの回復プログラムは多岐にわたっています。運動プログラム、就労プログラム、社会生活支援などがあります。
- △NA(ナルコティクス・アノニマス)は断薬および断薬継続のためのプログラムとしての側面もあります。ダルクが「入院」とするならば、NAは「通院」に相当します。ミーティングを通じて断薬状態を維持してゆくものです。
- △薬物依存症は覚醒剤や大麻などの非合法薬物だけで起こるわけではありません。睡眠導入剤や抗鬱剤、抗不安剤などの「医者からもらった薬」などでも発症します。ご注意ください。
- △岐阜ダルクでは入所・通所でのケアのほか、電話相談も行なっています。家族や知人などが薬物依存症と思われる場合には、迷わず岐阜ダルクにお電話をおかけください。



ダルクのボランティアを通して

岩佐茂宗

私が、ダルクのボランティアを始めたきっかけは、岐阜市 NPO・ボランティア協働センターに勤めていた知人の紹介です。まもなく7年になります。

ダルクでの仕事は、午後からリハビリプログラムで事務所が無人となりますので、留守番などの雑用をしています。その他には、年5回発行されるニュースレター「鶴鮎つうしん」の発送作業には、多くのボランティアさんと一緒に手伝いをしています。

私の願いは、岐阜ダルクに薬がやめられない人が常に10人以上の利用者がいて、自立支援法に基づく地域支援センター（地域生活支援事業）として位置づけられた施設として岐阜市から設定を認められることです。

そうなれば、収入も安定し、回復した依存者（経験者）を指導者として採用でき、多くの人を回復に導くことが出来るのではないかと思います。



岐阜ダルク設立時、PR活動と寄付金集めに駆けずり回っていたため、ダルクにかかってくる電話に出られないことが多いことを心配して下さった岐阜市 NPO・ボランティア協働センターの方が、岐阜市役所を退職後ボランティアをしたいという方がいるからと、岩佐さんを紹介して下さいました。行政のしくみなどいろいろと教えてもらって助けられており、仲間の傍らにそっと寄り添ってくれていてダルクにはなくてはならない存在です。

平成 23 年 12 月 活動 予定

- 1 日 ダルク後援会
- 2 日 岐阜市民活動支援事業パネルディスカッション
- 6 日 ニュースレター発送作業
- 8 日 岐阜市幼小中高生徒指導研究協議会講演
- 9 日 野宿生活者支援ボランティア
- 10 日 香川ダルク設立準備フォーラム
薬物電話相談日
- 12 日 各務原病院メッセージ
- 18 日 NA 静岡ワンデーターグループステップセミナー
- 24 日 薬物電話相談日
NA 月の風クリスマス会
- 31 日 NA 中部エリアギャザリング

平成 24 年 1 月 活動 予定

- 1 日~2 日 NA 中部エリアギャザリング
- 9 日 各務原病院メッセージ
- 13 日 野宿生活者支援ボランティア
- 14 日 薬物電話相談日
- 28 日 薬物電話相談日
- 30 日 全国ダルク責任者研修会

ご協力ありがとうございます

献金者名 (8月23日～11月10日到着分)

家田重晴 大口篤 林宣 桶野照代 今井英美子 田口大輔 白川博子 伊藤幸雄 須田八千代
同盟福音基督教会岐阜キリスト教会 森川・鈴木法律事務所 弁護士・伊藤知恵子 日比容子 須田裕
弁護士・長澤清 国枝重一 山田直 安藤平 北谷雅春 岩佐茂宗 野村純一 神谷法律事務所
日本福音ルーテル大垣教会 亀田公子 水谷抄子 池田ひろみ 岡田喜美江 脇谷保雄 岡村晴美
北野いつみ 岐阜県保護司会連合会 鈴木輝一郎 立垣昭 養清興業(株)
郡上社会を明るくする運動 多数の匿名のみなさま

献品者名

藤田商店(株) 岡本敏孝 穂波万有里 山本朗

※ニュースレター発送作業簡略化のため皆様全員に振込用紙を同封させていただいておりますことをご了承下さい。また匿名希望の方は、恐れいりますが、その旨を振り込み用紙通信欄にその都度ご記入下さいますようお願い致します。 郵便振替口座 00840-5-167752 岐阜ダルク後援会

11月30日付けのダルクの通帳残高が残りわずかとなってしまいました。毎月30万ほどかかる活動資金がなくて大変困っています。どうか寄付金のご協力をお願い申し上げます。継続的なご支援もよろしくお願い申し上げます。また、募金を集める機会がありましたらご協力いただけますようお願い申し上げます。 岐阜ダルク 遠山香

女性の入寮施設(女性ハウス)の物件を探しています

女性の入寮施設を設立したいため、岐阜市内で空き家を探しています。4・5名のが入寮できる3LDK程の物件を格安で貸してくれるよい情報がありましたら、お知らせください

連絡先 岐阜ダルク 施設長 遠山 TEL 058-251-6922

編集後記

△YouTubeでの動画配信をはじめました。Googleで「岐阜ダルク」で検索をかけると出てきます。

遠山施設長の動画がダントツで人気。(鈴木)

△この号を編集している間、岐阜ダルクから2名が「卒業」しました。本当に大変なのはこれからだそうですが、どうか温かい目で見てください。(鈴木)

編集 特定非営利活動法人 岐阜ダルク

編集担当 岐阜ダルク後援会 齋藤幸二 鈴木輝一郎

〒500-8175 岐阜市長住町7-3 TEL/FAX: 058-251-6922

Email: gifudarc2004@yahoo.co.jp ホームページ: <http://www.gifu-darc.org/>

2011年 岐阜ダルクニュースレター冬号 (No.33)

定価 1部 200円

編集責任者 遠山 香

発行所 東海身体障害者団体定期刊行物協会

名古屋市中区丸の内3-6-43 みこころセンター

このつうしんは岐阜市市民活動支援事業の助成を受けて、作成と発送をしています!!